

全数報告の感染症

- 1 類感染症: 報告なし
- 2 類感染症: コレラ 2 例 (感染地域: フィリピン 1 例、疑似症 1 例)、細菌性赤痢 12 例 (感染地域: 中国 3 例、インド 2 例、モンゴル 2 例、バングラデシュ 1 例、ベトナム 1 例、インドネシア 1 例、疑似症 2 例)、パラチフス 1 例 (感染地域: ミャンマー/タイ)
- 3 類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 257 例 (うち有症者 185 例、HUS 4 例) (感染地域: 国内 256 例、韓国 1 例 国内の多い感染地: 富山県 (71 例)、宮崎県 (28 例)、岩手県 (11 例) 年齢群: 10 歳未満 (154 例)、10 代 (26 例)、20 代 (21 例)、30 代 (21 例)、40 代 (11 例)、50 代 (9 例)、60 代 (10 例)、70 歳以上 (5 例) 血清型・毒素型: O157 VT1・VT2 (139 例)、O26 VT1 (57 例)、O157VT2 (41 例)、O111 VT1 (4 例)、O157 VT1 (3 例)、O26VT1・VT2 (2 例)、O18 VT1・VT2 (1 例)、O26 VT2 (1 例)、O111 VT1・VT2 (1 例)、O121 VT2 (1 例)、その他/不明 (7 例))
- 4 類感染症: E 型肝炎 1 例 (感染地域: 国内 (都道府県不明)、感染源: 不明)、A 型肝炎 6 例 (感染地域: 徳島県 1 例、福岡県 1 例、長崎県 1 例、国内 (都道府県不明) 2 例、インド 1 例)、つつが虫病 1 例 (感染地域: 長崎県)、デング熱 1 例 (感染地域: フィリピン)、日本紅斑熱 3 例 (感染地域: 愛媛県 2 例、鹿児島県 1 例)、日本脳炎 1 例 (感染地域: 高知県、40 代)、マラリア 5 例 (卵形 1 例、感染地域: ウガンダ 熱帯熱 3 例、感染地域: ナイジェリア 1 例、マリ 1 例、中央アフリカ 1 例 原虫種不明 1 例、感染地域: インドネシア)、ライム病 2 例 (感染地域: 北海道 1 例、新潟県 1 例)、レジオネラ症 6 例 (全て肺炎型) (年齢群: 40 代 1 例、50 代 2 例、60 代 1 例、70 代 2 例 感染地域: 栃木県 1 例 (温泉)、石川県 1 例 (温泉)、愛知県 1 例、大阪府 1 例、長崎県 1 例、熊本県 1 例)、レプトスピラ症 1 例 (感染地域: 熊本県)
- 5 類感染症: アメーバ赤痢 8 例 (腸管アメーバ症 6 例、腸管外アメーバ症 2 例) (感染地域: 国内 7 例、東南アジア 1 例 感染経路: 経口 1 例、性的接触 2 例 (ともに異性間)、不明 5 例)、ウイルス性肝炎 3 例 (すべて B 型、感染経路: 性的接触 2 例 (ともに異性間・同性間不明)、不明 1 例)、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例 (すべて孤発性プリオン病古典型)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例 (血清群: A 群、80 代)、後天性免疫不全症候群 20 例 (無症候 10 例、AIDS 7 例、その他 3 例) (感染地域: 国内 17 例、タイ 1 例、国外 (国不明) 1 例、国内・国外不明 1 例 感染経路: 性的接触 19 例 (異性間 10 例、同性間 8 例、異性間・同性間不明 1 例)、不明 1 例)、ジアルジア症 2 例 (感染地域: 国内 1 例、台湾 1 例)、梅毒 8 例 (早期顕症 I 期 2 例、早期顕症 II 期 2 例、無症候 4 例)、破傷風 4 例 (50 代 1 例、60 代 2 例、70 代 1 例)

定点把握の対象となる 5 類感染症 (週報対象のもの)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は減少した。都道府県別では沖縄県 (0.34)、茨城県 (0.08)、宮崎県 (0.05) が多い。

小児科定点報告疾患: RS ウイルス感染症は 68 例の報告があり、報告数は横ばいであった。年齢別では、1 歳以下の報告数が全体の 74% を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第 31 週以降、減少が続いているが、過去 5 年間の同時期 (前週、当該週、後週) と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では高知県 (1.9)、長野県 (1.9)、宮崎県 (1.4) が多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は微増し、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では鳥取県 (1.3)、宮崎県 (1.3)、大分県 (1.2) が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は 2 週連続して増加し、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では鳥取県 (6.6)、福井県 (6.1)、宮崎県 (5.9)、大分県 (5.6) が多い。水痘の定点当たり報告数は第 32 週以降、減少が続いている。都道府県別では大分県 (1.25)、徳島県 (1.11)、宮崎県 (0.86) が多い。手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では新潟県 (5.1)、長野県 (4.7)、石川県 (4.0) が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では長崎県 (0.73)、宮崎県 (0.70)、岐阜県 (0.65) が多い。百日咳の定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では栃木県 (0.07)、岐阜県 (0.06) が多い。風しんの定点当たり報告数は減少した。都道府県別では徳島県 (0.05)、長野県 (0.02)、愛知県 (0.01) が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第 28 週以降、減少が続いている。都道府県別では秋田県 (1.8)、北海道 (1.8)、青森県 (1.6) が多い。麻しんの定点当たり報告数は減少した。都道府県別では茨城県 (0.01)、神奈川県 (0.01) が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は第 31 週以降、減少が続いている。都道府県別では新潟県 (3.3)、鹿児島県 (2.7)、大分県 (2.7) が多い。

基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では大阪府 (2.0)、沖縄県 (1.4)、群馬県 (1.4) が多い。

1)	小児科定点												眼科定点		基幹定点								
	インフルエンザ	RS ウイルス感染症	咽頭結膜熱	菌咽頭炎	A 群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	成人麻しん	
(定点当たり)																							
愛媛県	.1	.4	.2	4.6	.5	.9	.2	1.4				.6	.5	3.9					.7				
近畿			.7	.1	2.8	.6	.5	.3	.9	.0		.2	1.1	2.0									
香川			.5	.4	1.7	1.1	.6	.3	.8		.1	.4	1.1	.3									
徳島			1.9	.5	2.4	.2	1.5	.0	1.0			1.2	.9	1.0				.3	.1				
高知																							
全国	.0	.0	.7	.6	2.7	.5	1.1	.3	.9	.0	.0	.6	.0	1.0	.0	1.3	.0	.1	.4	.0			
北海道	.0	.0	.5	1.0	1.1	.4	1.5	.2	.9	.0		1.8	1.1	.8									
東北	.0	.0	.4	.7	2.2	.4	.9	.3	.9	.0		1.0	.9	.5				.0	.4				
関東	.0	.0	.6	.5	2.3	.4	.8	.4	.9	.0		.4	.8	1.8	.0	1.8	.0	.0	.6	.1			
甲信越北陸	.0	.0	1.0	.6	2.8	.4	3.8	.2	.8	.0	.0	.5	1.9	1.8				.1	.2				
東海	.0	.0	.7	.7	2.5	.5	1.2	.6	.9	.0	.0	.4	.8	.6				.0	.1	.4			
近畿	.0	.0	.6	.5	2.7	.4	.8	.2	.9	.0		.4	1.0	.8				.0	.2	.5	.0		
中国四国	.0	.0	.8	.4	3.5	.4	.7	.2	.9	.0	.0	.5	1.0	.0	1.4			.1	.2	.0			
九州沖縄	.0	.1	.8	.6	3.9	.6	.6	.3	1.0	.0		.5	1.3	.1	1.7	.0	.1	.4					

1) 高病原性鳥インフルエンザを除く。 2) 成人麻しんを除く。 3) 真菌性を含む。 4) オウム病は除く。 (9月7日集計) 愛媛県基幹感染症情報センター

